

わたしたちは、予防医学を通じて人々の「生涯健康」「健康寿命の延伸」をめざし、健康と福祉の向上に努めることにより、社会に貢献してまいります。

# よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

## 子どもたちを 第250回 学校保健セミナー 突然死から守るために

街で当たり前に見かけるようになったAED(自動体外式除細動器)。学校現場においてもAEDの設置が進んでいるが、その重要性や使用方法を皆が理解し、十分に機能させられるかとなると疑問が残る。子どもの事故や発病は突然起こる。そして数分間が勝負だ。適切な処置で命を救うためには、学校心臓検診と共にAEDを含む学校救急体制の整備が重要である。第250回学校保健セミナー(主催・東京都学校保健会、本会)では「子どもたちを突然死から守るために―学校救急体制とAEDの重要性」をテーマに、愛媛大学大学院医学系研究科教授の榎垣高史氏が講演した。

### 学校救急体制とAEDの重要性

#### 検診と救急体制の両輪が基本

愛媛県で小児医療に携わる榎垣高史氏(写真)は冒頭、「愛媛県内すべての小・中学校にAEDが導入されたのは2008年で、普及のきっかけは、中学3年生男子の心臓震盪による不幸な死亡事故であった。子どもの突然死は心室細動によるものが多く、AEDがあれば救命の可能性は大きく広がる」と述べた。

学校管理下での突然死には、男子の発生率が女子の2〜2.5倍、午前中に多く、高学年になるほど発生率が高くなるという特徴がある。榎垣氏は突然死の事例を示しながら、突然死を来す可能性のある疾患や学校心臓検診で指摘可能な疾患を解説し、「学校心臓検診は突然死の予防に有効であり、突然死を減らす」と強調した。



#### 突然死ゼロを目指して

榎垣氏は、学校現場における子どもの突然死を予防するための3つの指標をあげ、次のように説明した。

①学校心臓検診の精度の向上、システムの改善  
学校心臓検診により子どもの突然死は減少し、心電図検査

点が多いと指摘。「突然死は必ず起こり得るし、後から振り返っても予測不可能だったというケースも少なくない。だからこそ救急体制の整備や日頃の連携トレーニングが大切だ」と強調した。

日本小児循環器学会の全国集計によると、学校で突然倒れAEDが使用された子どものうち、半数は心臓の持病がなかった。つまり突然死の半数は予測できず、誰にでも起こり得るということだ。突然の事故や発病時、適切に処置を行うためには、AEDを含めた学校救急体制を充実させ、日頃から学習・練習することが肝要である。

また、修学旅行など複数台を追加したい時は、消防署から借りて持参している。自治体や地域ごとにさまざまな方策があると思う」

③学校救急の意識向上  
突然死を経験した学校にア

査の導入により、さらに改善されている。「事前に予測できる疾患を持つ子ども」たちが、安全で有意義な学校生活を送れるようにするために、学校心臓検診の精度の向上やシステムの改善で、予測

ら設置場所を検討したり、AEDを運ぶ時間を短縮させる工夫をするなど、普段から備えられることはいろいろある。しかし学校にAED1台だけでは現実的に難しい。松山市内の各小・中学校には、11年時点で3〜4台のAEDが設置されている。職員室はもとより、体育館の外壁にも設置され、プールや課外授業などの時には移動用のAEDを持参している。また、レイアウトによっては追加の設置も行っている。

「事故の発生場所、AEDを取りに行く人や救急車を手配する人など細かく設定し、119番通報に何分、AEDの作動まで何分というように実際にシミュレーションをしてみる。さらに実施後、それぞれの動きについての問題点を話し合う。」

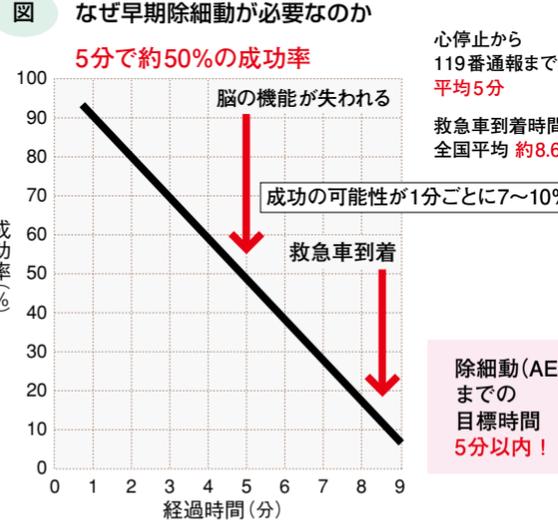
配役をくじ引きで決めたり、校長先生から生徒まで皆で一緒に取り組めば、学校全体の意識も高まるはずだ。防災訓練と同様、AEDの訓練も学校には必須だろう」

◆◆◆  
事故後、救急車到着までの時間は全国平均で8.6分。倒れて10分を過ぎると救命率が格段に下がり、救急隊が到着してからの処置だけでは助かる可能性は低い(図)。現場に居合わせた人の行動が、救命を大きく左右するといっても過言ではないのである。「事故が起きたら、とにかくためらわず2分以内に胸骨圧迫を始め、5分以内にAEDによる除細動を行う。」



### 今月の主な紙面

- (1面) ●子どもたちを突然死から守るために 第250回学校保健セミナー
- (2・3面(見開き))
  - 3Dマンモグラフィ検診に関する研究が始まりました―本会
  - 連載 ホルモンからみた思春期のこころと体(3)
  - 新連載 健康長寿社会を実現するための公衆衛生戦略(1)
- (4面) ●「企業でできるがん対策」めぐり 東京都がシンポジウムを開催
  - 第22回 健康づくり懇話会例会―本会
  - 連載 ALCAだより(18)



そのためには事故現場まで、往復2分以内でAEDを運べる環境が目標となる」  
地元のお祭りなどが集まる場には、必ずAEDを持って参加するという榎垣氏。「突然死は必ず起きる。子どもたちを守るために、AEDの設置を含めた学校救急体制の整備、チームの連携トレーニングと、それによる発症例に対する適切な対応が重要となる。突然死ゼロを目指し、日頃から積極的に取り組んで欲しい」と締めくくった。

個人情報の取扱いについて  
日頃より、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理の下に運用しております。その上で今後も継続して送らせていただきたいと思います。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、右記広報室までご連絡ください。

### 健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

担当：江崎良晴

お問い合わせ・ご相談は事務局まで(予約制・無料)

健康管理コンサルタントセンター  
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1-2  
(公財)東京都予防医学協会  
電話 03-3269-1141

送付先の変更・中止について  
送付先の住所変更・購読中止の場合には、変更内容を本会広報室までお知らせください。

Eメール  
koho@yobouigaku-tokyo.jp  
FAX 03-3269-7562  
電話 03-3269-1131  
でも承っております。



# 「企業でできるがん対策」めぐり 東京都がシンポジウムを開催

## 「あなたが守る従業員の健康と 生きがい」と題し講演や表彰式

がん患者の生存率は近年上昇傾向にあり、がんを抱えながら働く人の数も増えている。このため昨年12月に改正されたがん対策基本法には、職場における取り組みの充実を図るために「事業主の責務」が盛り込まれた。こうした中、3月6日に

東京都の主催で、がんの早期発見及びがん患者の治療と仕事の両立支援に関する正しい理解のためのシンポジウム「あなたが守る従業員の健康と生きがい——企業でできるがん対策」が東京・千代田区のイノホールで開催され、基調講演や取り組み事例の発表、積極的な表彰などが行われた。



2人に1人ががん罹患する時代。がんの罹患率は高齢に

なるほど増えるが、都民の64歳が占めており、働く世代にも無関係ではない病だ。

またがん医療の進歩などを背景に、がん患者の生存率が向上し、がんと共に生活し、働くことができる人の数も増えてきている。

こうした状況を踏まえ、東京都では、がんを

防ぐことができない社会を目指す。がんを予防し、さまざまながん対策を進めている。今回のシンポジウムはその一環として、企業でがん検診を行う重要性や、従業員ががんになった時に求められる配慮や対応など、企業のがんに関する正しい理解を促進するために開かれた。

第1部の基調講演では、がん研究会有明病院がん相談支援センターがん看護専門看護師の花出正美氏が「がん治療と仕事の両立に向けて——職場の人が理解しておきたいこと」と題して講演した。

表彰式では、東京都がん対策推進協議会の委員で、支援事業のアドバイザーでもある本会の小野良樹理事長が登壇。表彰企業の選定などに協力した立場から総評を行った。

研究会議には、本会など予防医学事業中央会傘下の都府県支部の検査技術担当者や関係者らが参加。各種がん検診、保健指導、超音波検査などの研究発表(写真)、フォーラムディスカッション「新しい健康増進事業の構築」、広島大学大学院歯学保健学研究所教授の田中純子氏による教育講演「疾病予防と制御における健診・検診の役割について」などが行われた。

## 新たなる予防医学技術の向上をめざして 第51回 予防医学技術研究会議



第274回ヘルスケア研修会が7月12日に開かれる。「リワークプログラムの実際」をテーマに、メディカルケア虎ノ門院長の五十嵐良雄氏が講演する。

第274回ヘルスケア研修会が7月12日(水)14~16時 東京千代田区「星陵会館」で開催される。

第274回ヘルスケア研修会が7月12日に開かれる。「リワークプログラムの実際」をテーマに、メディカルケア虎ノ門院長の五十嵐良雄氏が講演する。

### お知らせ

第274回ヘルスケア研修会

リワークプログラムの実際

7月12日(水) 14~16時 東京千代田区「星陵会館」

第274回ヘルスケア研修会が7月12日に開かれる。

「リワークプログラムの実際」をテーマに、メディカルケア虎ノ門院長の五十嵐良雄氏が講演する。

司会は日立ソリューションズ健康管理センター長の辻正弘氏。

参加費2000円。定員300人(当日先着順)。

第53回東京恵春期保健研究会

現代のいじめの現状と課題

大人のすべきこと

6月3日(土) 17時~ 東京・新宿区 持田製薬本社「ルクホール」

第53回東京恵春期保健研究会が6月3日に開かれる。

「現代のいじめの現状と課題——大人のすべきこと」をテーマに、山脇由貴子心理オフィスの山脇由貴子氏が講演する。

参加費 一般1000円、学生500円。

当日会場にて受付。問い合わせは東京恵春期保健研究会事務局(電話03-5275-1191)まで。

## 3Dマンモグラフィなど 話題に

### 第22回 健康づくり懇話会例会

本会と本会のユーザーが健康づくりに役立つ情報交換と相互交流を目的に運営している健康づくり懇話会の第22回例会が、3月3日に都内のホテルで開かれ、事業所や健康保険組合の健康管理担当者、本会のスタッフら約100人が参加した(写真)。



例会の第1部では、「新しいマンモグラフィ撮影技術——3Dトモシンセシス」と題して本会がん検診・診断部の坂佳奈子部長が講演した。

第2部では、本会健康増進部の鶴田浩子管理栄養士が、人間ドックで行っている、弁当を美味しくするためのミニ講話の取り組みとその成果を報告。また、職場で活用していただいている「ランチョ」を紹介した。

これまで多くの皆様の経過を見てきましたが、同じようにタバコを吸っているも、肺がんや慢性閉塞性肺疾患(COPD)に罹る人もいれば罹らない人もいます。また、病気の進行の早い人もいれば遅い人もいます。

その違いの原因の一つに遺伝子の相違があると思われ、病気の原因となる遺伝子がわかれば、どのような人により強力に禁煙をすすめるべきか、またどの

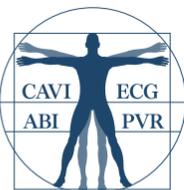
**ALCA だより**  
**金子昌弘** 本会保健会館  
 クリニック所長  
**遺伝子検査への協力のお願い**

研究が始まりました。唾液を2ccほど採取するだけで遺伝子の検査ができます。この検査に関する情報は、本会の皆様にご協力いただき、CTでの肺の状態と遺伝子の関係を調べたいという方へ提供させていただきます。

参加しなくても不利益を被ることはありませんが、ぜひご参加ください。お問い合わせは、電話03-5275-1191まで。

## 血圧脈波検査装置

**VaSera**™  
VS-3000シリーズ



不整脈など、波形の乱れが生じやすいデータでも適切な連続波形を選択し、計測することが可能です。



〒113-8483 東京都文京区本郷3-39-4 TEL (03) 3815-2121 (代) <http://www.fukuda.co.jp/> お客様窓口 ☎ (03) 5802-6600 / 受付時間: 月~金曜日(祝祭日、休日を除く) 9:00~18:00

●医療機器専門メーカー

## CAVI Cardio Ankle Vascular Index (心臓足首血管指数)

### ●動脈の硬さの評価

CAVIは大動脈を含む「心臓から足首」までの動脈硬化度を反映する指標で、動脈硬化が進行するほど高い値となります。また、測定時の血圧に依存しない、血管固有の硬さを評価します。

## ABI Ankle Brachial Pressure Index (下肢動脈の狭窄、閉塞)

### ●末梢動脈疾患(PAD)の鑑別診断・重症度判定

ABIは、下肢動脈の狭窄・閉塞を評価する指標です。PADは、心血管疾患、脳血管疾患など、他臓器障害との合併が多く見られることから、早期発見が重要とされています。

